

## 中学校の英語教育におけるオリエンテーション授業の実践

### ～ 小学校の英語教育との円滑な接続を目指して ～

三豊市立仁尾中学校  
教諭 赤井真三子

#### 1 はじめに

2020年度、小学校では新学習指導要領が全面実施となり、高学年では年間70時間、中学年では35時間の英語の授業が実施されている。小学校では英語の学習量が増えるとともに、中学校の言語材料も扱われるようになった。もし、小学校と中学校の円滑な接続がなされなければ、中学校において再度同一内容を同じ学び方で教えられたり、過剰な学習成果を期待されたりする可能性がある。それにより、生徒は学習意欲を喪失し、教員は授業の改善の方法を見出せず戸惑うことが想定される。

中学校英語科教員は小学校での英語の学習内容と学び方、入学してくる生徒の英語学習状況を理解して指導にあたる必要がある。そこで、中学校英語科教員が小学校での英語学習について知るためと、生徒が小学校での学びを振り返り、中学校での英語学習の見通しを持つためのオリエンテーション授業を開発した。そして、開発したオリエンテーション授業で用いる教員用指導書と生徒用ワークシートを三観地区英語科教員の協力による授業実践により、改訂版をインターネット上に公開し、どこの中学校でもオリエンテーション授業が実践できるようにした。

#### 2 実践の内容・方法

##### (1) 課題設定の理由

2020年度、小学校における外国語の教科化に伴い、小学校英語と中学校英語の円滑な接続を進める手立てが必要になった。課題は次の2点である。

第1に、中学校英語科教員は小学校英語の学習内容、入学してきた生徒の学習状況を十分に理解できていない。もし小学校英語や生徒の学習状況を十分に理解しないまま、従来の方で授業を行えば、音声中心の学習から読み書きが本格的に加わった学習への急激な移行に、多くの生徒が戸惑いと抵抗感を持つことになる。中学校英語科教員の小学校英語と生徒の学習状況に関する理解が不可欠である。

第2に、中学校入学直後の生徒は、小学校で学んだ英語の振り返りと中学校英語の見通しを十分に持てていない。振り返りと見通しの獲得なしに英語指導を行うと、生徒は「できる」という達成感を味わえなかったり、適切なフィードバックや励ましが得られなかったりして、学習意欲が低下してしまう。振り返りと見通しの獲得も不可欠である。

そこで、小学校での学びを最大限に活かすことで生徒が「中学校の英語も楽しい！」と感じることができるよう、中学入学直後のオリエンテーション授業を開発した。

##### (2) 実践の過程

香川大学教職大学院での内地留学中に、小・中学校の学習指導要領を比較・検討し、小学校での英語の授業参観と聞き取り調査とアンケート調査を実施した。これらの調査をもとに、オリエンテーション授業を核とした取り組みを構想した(表1)。

表1 オリエンテーション授業を核とした接続の取り組み構想

	第1段階 オリエンテーション 授業前 4月上旬	第2段階 オリエンテーション授業 4月中旬	第3段階 オリエンテーション 授業後 4月下旬～中学校卒業
教員	【小学校の英語教育についての理解】 ①小学校外国語科実施についての理解 (CT15) ②学びの連続性の理解 (CT16,17,29) ③中学校英語の役割の理解 (CT1~3) ④授業改善のポイントの理解 (CT18~20)	【授業実践内容】①授業全体を通しての英語力の実態把握 (CT4~13) ②振り返りによる英語力の実態把握 (CT14)  1時間目 ①英語であいさつをさせる。 ②自己紹介を聞かせて質問に答えさせる。 ③自己紹介をさせる。 ④Do you like ?を使ってインタビューをさせる。 ⑤英語を勉強する理由を考えさせる。 ⑥英語を使ってみたいことを考えさせる。 ⑦授業の準備物を説明する。  2時間目 ①授業のルールを説明する。 ②大文字と小文字を読ませる。 ③大文字と小文字を線で結ばせる。 ④大文字と小文字を書かせる。 ⑤読まれた単語を選ばせる。 ⑥文を見本を見て書かせる。 ⑦自分の名前をローマ字で書かせる。 ⑧英和辞典の使い方を説明する。 ⑨「書くこと」について学習の方法を説明する。 ⑩英語学習について見通しをもたせる。 ⑪オリエンテーション授業の振り返りをさせる。	【日常の授業改善】 ①小学校で学んだ言語材料の定着、発展のための指導 (CT21~28) ②コミュニケーションを支える文法指導 (CT18) ③「書くこと」についての指導 (CT17,19) ④コミュニケーション活動の指導 (CT20)
生徒		①自分自身の英語力の把握(CS1~6) ②振り返りによる自分自身の英語力の把握(CS7) ③英語学習の見通しをもつための手立て ・英語を学ぶ前に (CS2) ・英語の学び方 (CS3,5,6)	①「書くこと」についての学び方 (CS6) ②振り返りの継続

CT(English Compass for Teachers)=教員用テキスト、CS(English Compass for Students)=生徒用テキスト

### 3 実践の成果

(1) 教員用 Compass と生徒用 Compass の作成  
中学校の英語学習を円滑に進めていくためのツールとして、オリエンテーション授業で用いる教員用指導書と生徒用ワークシート集の2種類のCompass (図1)を開発した。

教員用 Compass “English Compass for Teachers” を利用することによって、中学校英語科教員は小学校英語の内容と方法を手軽に知ることができる (図2)。教員用 Compass には、オリエンテーション授業の進め方も収録されている。

生徒用 Compass “English Compass for Students” を用いることで、生徒が自らの英語力を確認することができる。

#### (2) オリエンテーション授業の実践

##### ① オリエンテーション授業の内容

中学校英語科教員は、教員用 Compass を参考に、3時間 (改訂後は2時間) のオリエンテーション授業を実践する。中学校英語科教員は生徒用 Compass に記入した内容や生徒の反応から、生徒一人ひとりの実態を正確に把握することができる。



図1 教員用と生徒用の Compass

第1章 変わる！中学校英語の役割
第2章 English Compass for Studentsの使い方
第3章 小学校外国語活動・外国語科完全実施までの流れ
第4章 小学校外国語科の学習指導要領のポイント
第5章 小学校英語をふまえて、変えるべき4つのポイント
第6章 小中英語のスムーズな接続のための3つの留意点
第7章 小学校外国語活動・外国語科で扱われる表現一覧
第8章 小学校第6学年～中学校第3学年の「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標

図2 教員用 Compass の内容

② オリエンテーション授業の役割

生徒は生徒用 Compass の問題を解答する。そして、問題終了後にそれぞれの問題に設けた「英語でできるようになったリスト」で自己診断を行い、その結果を生徒用 Compass に記入する。2時間のオリエンテーション授業後に、自己診断した6項目を振り返りシート（図3）に記入する。これにより、生徒自身が小学校での学びを振り返り、自分の英語力を客観的に捉えることが可能になる。

また、生徒用 Compass に「英語を学ぶ前に」や「英語の学び方」のコーナーを設け、小学校と中学校の学び方の違いを理解しやすいようにした。「英語の学び方」は、中学校での英語学習への見通しを持たせ、主体的に学習する姿勢を身につけることを可能にする。



### 英語オリエンテーション授業の振り返り

1年( )組( )番 氏名( )

英語でできるようになったことリスト		できる○、あともう少し○、これからがんばる△
1	【話すこと】 友だちに簡単な自己紹介をすることができる。	
2	【話すこと】 友達に好きかどうかたずねたり、質問にYes / No で答たりすることができる。(Yes. / No. だけでも○)	
3	【読むこと】 書かれたアルファベットの大文字と小文字を読むことができる。	
4	【書くこと】 アルファベットの大文字と小文字を順番どおりに書くことができる。	
5	【聞くこと】 日常生活の身近なものについて、音声（発音された音）とつづりを結び付けることができる。	
6	【書くこと】 英語の書き方のきまりに合わせて正しく文を書くことができる。(人名や地名、文頭は大文字、単語と単語の間は少し離す、文の最後はピリオドかクエスチョンマークをつける。)	



図3 生徒用 Compass の振り返りシート

(3) オリエンテーション授業後のアンケート調査

① アンケート調査の概要

2019年4月に三豊市、観音寺市の10中学校の14名の英語科教員に協力を得て、1年生732名に、オリエンテーション授業を実施した。そして、オリエンテーション授業後に中学校英語科教員と生徒にアンケート調査を行った。

## ② オリエンテーション授業の必要性

中学校英語科教員の86%が「オリエンテーション授業は必要である」と回答し、多くの中学校英語科教員が必要性を感じている（図4）。必要性を感じている理由としては、「生徒の英語力を見取るために有効である」、「小学校でどのような学習をしたのかを把握する上で役に立つ」、「中学校での英語学習の心構えを理解させるための手助けになる」等があった。

一方、オリエンテーション授業後の生徒の感想は、83%の生徒が「英語の授業が楽しになった」という肯定的な回答をしており、英語の授業に前向きに取り組もうという意欲がうかがえる（図5）。

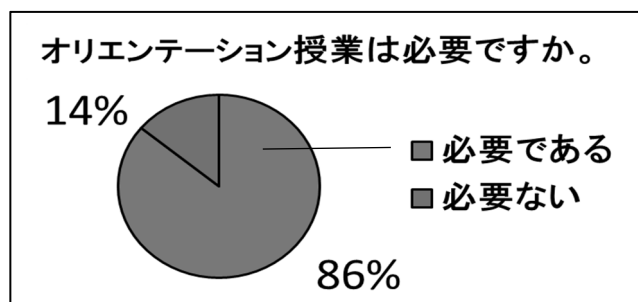


図4 中学校英語科のオリエンテーション授業の必要性

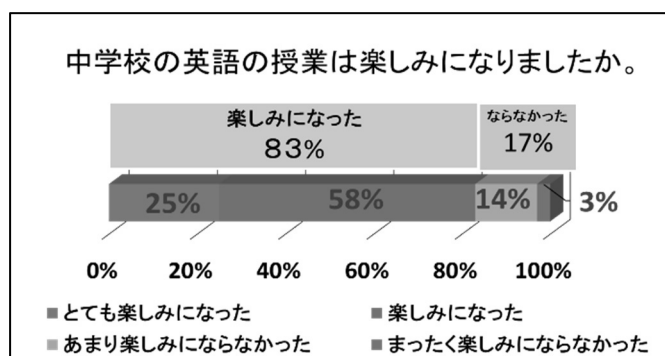


図5 オリエンテーション授業後の生徒の感想

## 4 普及させたい取組と期待される効果

今後、普及させたい取組として、以下の2点がある。

第1に、より多くの中学校でオリエンテーション授業が実践されることである。どこの中学校でも実践ができるようにするために、香川大学教職大学院のホームページから2種類のテキストをダウンロードできるようにした。2019年3月にホームページに掲載し、2020年3月に改訂版を掲載した。また、2019年度香中研英語科教員夏季研修会では、「オリエンテーション授業の成果と課題」について発表し、県下の中学校英語科教員にオリエンテーション授業の内容や方法を紹介した。その結果、2020年度もオリエンテーション授業（改訂版）を10校の中学校で実施予定である。

第2に、オリエンテーション授業後の日常の授業においても、小学校英語を踏まえた授業改善を進めることである。教員用 Compass を用いて小学校英語を理解し、小学校英語との繋がりのある指導を中学校英語で進めていくことができると思う。

これら2点の取組を普及させることで、生徒が中学校英語に戸惑わずに達成感や充実感を味わえる授業が実現できる。

## 5 課題及び今後の取組の方向

今後は以下の2点の課題に取り組んでいく。

第1に、中学校英語科教員のだれもがオリエンテーション授業の必要性を実感し、実践できるよう、中学校英語科教員との情報共有を進めていく。

第2に、小学校での学びを活かした授業を実践するために日常の授業改善に取り組み、実践内容をもとに教員用 Compass をバージョンアップツールとして実用化していく。